

第2部 部門別協議会 (ロータリー財団部門)

第一部の本会議が終了し、参加者は疲れた様子であったが、コーヒープレイクをはさみ、第二部の部門別協議会が始まりました。ロータリー財団の協議会では2015-16年度地区ロータリー財団委員会の今西良介さんの司会で始まり、最初は地区財団部門顧問直前ガバナーである福家宏さんにより「ロータリー財団の歩み」について話がありました。1917年RI会長アーチ・クランフが提案して基金が設立され、1928年に「ロータリー財団」となる。財団の成長とともに①平和と紛争予防、解決、②疾病予防と治療、③母子の保健、④水と衛生、⑤基礎教育と識字率向上、⑥経済と地域社会の発展の6つの重点分野への支援に焦点を当て、活動を進めてきました。その中でもポリオ撲滅に重点的に取り組み、驚くべき成果を上げてきました。

次に「ポリオプラス」について、次年度地区財団ポリオプラス小委員長の松下和彦さんから話がありました。現在ポリオのない世界まであと少しのところまで来ています。ロータリーはポリオのない世界を実現するために、ファウンド・レイジングを続けていくことがとても大切であります。ポリオ・プラスとは、ポリオ以外にも麻疹、ジフテリア、結核、百日咳、破傷風をプラスして、ウィルスの伝播を阻止するためのワクチンを世界中の児童に予防接種を行なっていくことである。そのためにも①全国予防接種日のための地域社会動員、②ポリオ・ウィルス免疫所への援助、③ポリオ担当役員・疾病専門家への援助活動、これらの3つのニーズに目標をおき、ポリオ撲滅に必要な用具や補助品の費用やその他の活動費等を支援していく。現在ポリオの発生が確認されているのは、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3国だけであるが、テロ活動が活発な地域であり、予防接種などの治療活動が前に進んでいないのが現状である。ポリオのない世界を実現させるため、より一層のアドボカシー活動をしていくのがロータリーの大切な役割であると締めくくった。

次に「財団の資金モデルと補助金モデル」について、次年度地区ロータリー財団委員長の宮里唯子さんから話があった。財団の新しい資金モデルとして、新たに年次基金寄付の5%、企業寄付の10%、GG補助金の現金拠出の5%を組み込んでいく、財団の補助金モデルとしては地区補助金、グローバル補助金を出すことにより、①人道的奉仕活動、②グローバル奨学金、③職業研修の3つの活動を推進していくことになるそうです。

次に「財団寄付」について次年度地区財団資金推進小委員長の四宮孝郎さんから話があった。寄付の対象は①年次基金、②恒久基金、③ポリオプラス基金、④特定の活動分野、⑤特定のプロジェクトの5つあります。今年目標としては、年次寄付は一人あたり150ドル以上に、一人あたり100ドル未満のクラブを0に、ポリオ基金は一人あたり50ドル、恒久基金の寄付は1000ドル以上でベネファクターの称号を与えることを目標とします。寄付の集め方として、会費に一定額を含める、任意の金額を会員に募る、両者の併用がある。あるクラブでは、会費に寄付を毎月15ドル上乗せして請求、年間一人あたり180ドルの寄付を達成した例を紹介された。ロータリーのクレジットカードも利用額の0.3%~0.5%と年会費の一部が財団の寄付となり、2000年の開始以来860万ドルの実績が上がっている。年次寄付は補助金の原資であるので、財団への寄付をお願いしますという言葉で締めくくった。

最後に質問タイムがあり、千里ロータリークラブの方から、感動の提供、寄付をしてくれたクラブにはお礼に行くべきではないかという意見が出された。福家直前ガバナーは、委員会からはお礼に行っていないが、これから検討すると答えられた。次に箕面千里中央ロータリーの方から、パワーポイントなどの説明資料の貸し出しについて質問が出された。宮里委員長からネットに1週間後にアップするのでそれを利用してほしいと答えられた。

以上をもって一時間半にわたる会議は終了した